

支援部だより「かけはし」

NO1.



令和7年3月6日

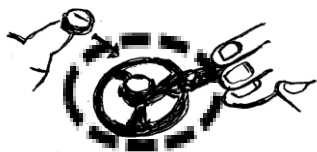
人工内耳と補聴器の手入れについて

機器を長く使うためには、手入れが必要です。人工内耳や補聴器は、高価な機器ですので、機器の手入れについて知っていると故障を防ぐことができます。毎日、就寝前に機器の手入れをし、大切に使用していきましょう。基本的な機器の手入れについて説明します。

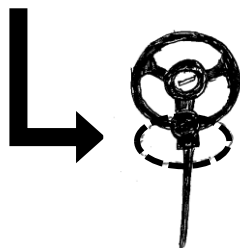
【人工内耳の手入れ】

毎週1回、サウンドプロセッサの接続部分や送信ケーブルの接続部を小さいブラシや綿棒で優しく汚れを取りましょう。

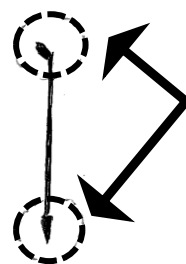
① 送信コイルからマグネットを外して、溝を軟らかい乾いた布で拭きましょう。



② 送信コイルの接続部を小さいブラシや綿棒で優しく汚れを取りましょう。

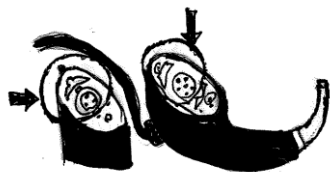


③ 送信コイルからケーブルを外して、接続部の汚れを小さいブラシや綿棒で拭き取りましょう。



ケーブルの取り付け取り外しは根元を持ちます。

④ プロセッサは、汚れやさびが付くときがあるので綿の柔らかい布で拭くとよいでしょう。



マイクロホンカバーの交換

交換の目安は、2～3か月に1回です。マイクロホンカバーは、汗や埃からマイクロホンを守るため、カバーの汚れは、音の聞こえに影響します。よりよい聞こえを維持するために定期的にカバーを交換するとよいでしょう。



補聴器の手入れ

冬期や春期は、石油ストーブやガスストーブ等から発生する二酸化炭素の影響で電池寿命が短くなるため定期的に部屋の換気をするとういでしょう。補聴器も温度差によって、チューブ内等に水滴が溜まってしまうことがあります。補聴器は精密機械のため水分に弱いです。**結露**は補聴器内部の精密機器に影響を与えるだけでなく、耳栓部分と本体をつなぐチューブを詰まらせて音が聞こえづらくなったり、腐食を引き起こしたりする可能性があります。寝る前に、詰まった水分は通常のシリカゲルでは、取れにくいため、機械式の乾燥機を使用するとよいでしょう。また、補聴器は電池が冷えていると性能を十分に発揮できないため、体温で少し温めてから使用するとよいでしょう。

乾燥機

